

大久保では網の設置場所を陸土の影響の強い岸よりと、全く影響を受けない沖合側の2カ所を選定し、各々海底から1 m離して設置した。20日後、岸よりの網では10cm以上に生長したのは5個体であるのに対し、沖合側は順調に成長した。30日後の観察では、1網(1.2×18m)で第1回摘採で100~120 kgの収穫があった。

また本県で実施されている建築用ブロック投入(築碁事業)による方法でも網と同様に陸土の影響のないところは良好な結果が得られている。

このようにモズク漁場の周辺では人工採苗によらず、単に着生基質を与える意味で直接海底に網地を張っても十分効果があると思われる。特に漂砂の移動が激しく海草(藻)の生育量が少ない漁場で有効である。

モズクは着生基質を選ばないという特長を生かし、漁場を管理し、集約的な方法でより省力化をはかることが可能である。

4 まとめ

生育適水温(21°C~26°C)が明らかになり、着生基質として網ビビや建築用ブロック投入による方法が有効なことがわかり実用化されるに致った。

漁場改良条件として陸土に由来する浮遊懸濁物質の流入がないこと、波が隠かであることであり、流速の上限はサンゴやカイメンソウ群落が生育できない程度のものである。